

認知症コラム



若年性認知症支援コーディネーター 古屋富士子氏 Vol.6

久里浜医療センターで若年性認知症支援コーディネーターとして、相談業務に従事している古屋さんに、お話を伺いました。

【若年性認知症の方に対して社会や市内の企業の支援体制はどのようになっていますか。横須賀市内の企業の中で、若年性認知症の方に支援しているものはありますか。】

久里浜医療センターは三浦半島の認知症疾患センターであることもあり、比較的早期に確定診断をされる方がいます。診断後はカミングアウトをして、同じ職場で就労を継続されている方、また病名を伝えず就労を継続されている方、診断前にすでに退職されている方と様々です。どちらかという横須賀市内で就労継続の相談は多くはありません。

以前に、労働基準監督署主催で、市内の企業の方に若年性認知症について話をさせてもらった経験があります。

昨年神奈川県で作成した「若年性認知症の本人・家族用パンフレット」にも、やめる前にご相談くださいと記載していますが、実際には辞めてからの相談のほうが多いです。

若年性認知症の対象者は、横須賀市で約 108 人、横浜市は 1,074 人、川崎市で 460 人です。現在 70 歳になった方も含めてですが、私が担当する横須賀、三浦、葉山、逗子、鎌倉地区で約 80 人の方がいらっしゃいます。決して多い病気ではありませんが、少ない数でもない状態です。

【今後に向けての課題は何でしょうか。】

今後、取り組みたいことは前頭側頭型認知症(ピック病)の家族の会を神奈川県で立ち上げたいと思っています。他の認知症と違い反社会的行動も症状のひとつです。本人の病識もないために家族の疲弊度は高く、ほかの認知症の家族とは異なることが多く、孤立化してしまう傾向にあるといえます。ぜひ支援する仕組みを作りたいと考えています。

次に、通勤支援です。通勤支援を得ることでまだまだ働ける方がいると思います。そのほか、若年性認知症の本人・家族の理解に対して啓発が不足していると思います。コロナ禍で研修方法も変化しています。しばらくはリモートになると思いますが、講演会などを通して認知症者本人が活躍できる場を確保していければと思います。

